

【平成31年度全国学力・学習状況調査 調査結果】

令和元年9月20日

学力について

国語

本校の平均正答率は全国平均、千葉県平均を大きく上回っており、知識の習得、及びそれを活用する力が高い児童が多いことがわかる。特に、「話すこと・聞くこと」及び「読むこと」の領域に関しては、非常に高い正答率であった。しかし、全国平均は上回っているものの、「書くこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域に関しては正答率がやや落ちる傾向にある。具体的には、「目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力」や、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う力」である。各単元において、自分の考えを持ち、それをわかりやすく他者へ発信できるようにするための手立てを取ることや、はげみの時間等を利用しての日々の反復練習や積み重ねを大切にして、指導していくようにしたい。

算数

本校の平均正答率は全国平均、千葉県平均を大きく上回っている。特に、「数量や図形についての技能」及び「数学的な考え方」の観点において全国平均を大きく上回っており、本校の児童は活用する力の高い児童が多い傾向にあることがわかる。しかし、全国的な課題ではあるが、除法（わり算）の関わる問題については正答率が低い傾向にあり、本校でもわり算を苦手としている児童が見受けられることがわかる。正しい知識の理解、日々の学習における積み重ねを意識し、丁寧に指導していくようにしたい。

児童質問紙

本校6年生の特徴として、どの質問に対しても概ね肯定的な意見が多い傾向にある。「将来の夢や目標を持っているか」「人の役に立つ人間になりたいか」「学校に行くのは楽しいか」などの質問に対する肯定感から、明るく前向きに生活している児童が多いことがわかる。一方で、「今住んでいる地域の行事に参加しているか」や「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがあるか」という質問に対しては肯定的な回答は約半数である。学区が千葉ニュータウン中央駅近辺という新興住宅地であるため、地域に根付いた伝統や文化が少ない面もあるが、住んでいる地域に高い関心を向け、より多くの人との繋がりを大切にしていくことで、他面的な考えをさらに深めていくことができるのではと考える。「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」という質問に対しては、約7割が肯定的な回答である。中学校進学に向けて、自主的な学習に取り組む素地を、さらに多くの児童に身に付けてほしいと考える。

なお、本調査結果は学力の一部を示すものである。